

CDDP/ リピオドール懸濁液の安定性

岸田充広*, 町支臣成, 堀本重紀*

基礎と臨床 26 (4) 439-443 (1992)

Stability of CDDP/Lipiodol Suspension

Mitsuhiro Kishida*, Tominari Choshi and Shigenori Horimoto*

抄録 最近各種癌に著効な制癌剤であるシスプラチン(CDDP)が、各病院において粉末化され、腫瘍集積性のあるリピオドールをキャリアーとして肝動脈内に注入する癌化学療法が繁用されている。当院でもCDDP/リピオドール懸濁液(CPLS)の臨床使用において、薬剤部が用時調製を行っているが、緊急の場合、調製の繁雑さに問題がある。そこで、臨床への対応を迅速にすることを目的とし、製剤としての安定性を調べCPLSの予製保存の可否を検討した。CPLSは、5℃、25℃遮光保存において、4週間後迄含量は安定し、平均粒子径も一定していた。無菌試験も陰性であった。また、25℃4ヶ月保存後に外観変化が認められた。これらの結果から当院でのCPLS調製では、4週間まで予製保存が可能であることが分かった。

* Department of Pharmacy, Hiroshima General Hospital

広島総合病院薬剤部